

2025 年 6 月 27 日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

## GMO インターネットグループ、生成 AI の業務活用率は 94% ! 活用頻度、活用レベルなど前回調査を大きく上回る結果に

“すべての人にインターネット”をコーポレートキャッチに、インターネットインフラ、インターネットセキュリティ、インターネット広告、インターネット金融、暗号資産事業を展開する GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、グループ全体で取り組む生成 AI の活用・業務効率化の取り組みを進め、四半期に一度、生成 AI の活用に関する定点調査<sup>(※1)</sup>を実施しています。

2025 年 6 月に実施した調査の結果、グループ全体の**生成 AI 業務活用率は 94.1%**に到達し、**AI を活用しているパートナー（従業員）の 67.3%が「ほぼ毎日」活用しており、前回より 12.7 ポイント増加と大幅に上回った**ことがわかりました。また、**月間の業務削減時間は約 22.4 万時間**に到達し、**1 人あたり<sup>(※2)</sup> 約 38.4 時間を削減**できていることとなりました。<sup>(※3)</sup>

生成 AI 活用率が 9 割を超えた現在も、AI 活用による効率化の勢いはそのままに、グループ内の AI 活用が引き続き活性化している実態が見えてきました。<sup>(※4)</sup>

**生成AI業務活用率は94% !**  
**活用頻度、活用レベルなど**  
**前回調査を大きく上回る**

**GMO**  
INTERNET GROUP

### ■ 調査サマリ

- ・ 2025 年 6 月時点で全体の**生成 AI 業務活用率は 94.1%**（前回調査差+4.1 ポイント）
- ・ 生成 AI を業務に活用しているパートナーのうち 67.3%が「ほぼ毎日活用」
- ・ 職種がエンジニアのパートナーは 96.5%が生成 AI を業務活用しており、うち 79.1%が「ほぼ毎日利用」
- ・ エンジニアの 86.8%が生成 AI をスクリプトや関数を含むコーディング（以下、生成 AI コーディングと記載）に利用
- ・ グループ全体の**月間の業務削減時間は推定 22.4 万時間と前回より大幅増**（前回調査差+約 4.7 万時間）1 人あたり**業務削減時間は約 38.4 時間**に（前回調査差+約 6.2 時間）

- ・ 生成 AI を業務に活用しているパートナーで**複数 AI ツールの利用率は、67.7%**で、前回は大きく上回る結果に。（前回調査差+14.3 ポイント）
- ・ **有料生成 AI ツールの契約は 46%**にとどまるもののパートナー1 人あたり月間上限 1 万円分の生成 AI 利用を支援する「**GMO AI ブースト支援金**」<sup>(※5)</sup>が**開始**し次回増加見込み。

## ■ 調査概要

- ・ 調査テーマ : 「生成 AI 活用」実態調査
- ・ 回答者数 : 6,489 人（有効回答 5,405 人）
- ・ 調査対象 : GMO インターネットグループの国内パートナー  
（正社員、契約社員、アルバイト、派遣社員、業務委託）
- ・ 調査期間 : 2025 年 6 月 9 日（月）～6 月 13 日（金） 調査テーマ：「生成 AI 活用」実態調査

(※1) 2024 年の年間調査結果 : <https://www.gmo.jp/news/article/9330/>

(※2) 国内全パートナーの 90.0%にあたる 5,840 人が生成 AI を活用していると仮定し算出。

(※3) 業務活用をしているパートナーの 1 人あたりの削減時間。

(※4) 2023 年 11 月 20 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/8680/>

2024 年 04 月 09 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/8922/>

2024 年 07 月 05 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/9051/>

2024 年 10 月 09 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/9185/>

2025 年 01 月 07 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/9330/>

2025 年 03 月 28 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/9455/>

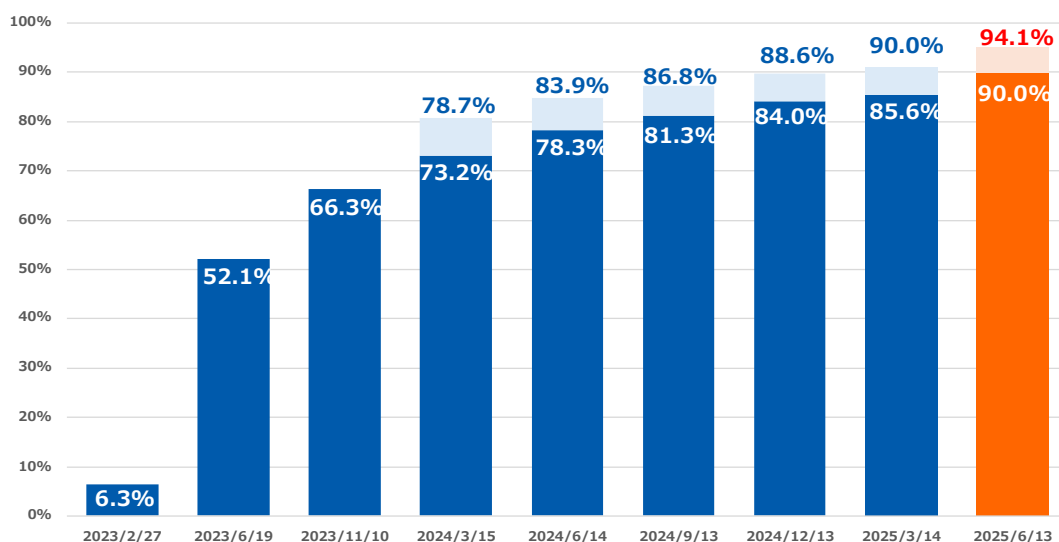
(※5) 「GMO AI ブースト支援金」<https://www.gmo.jp/news/article/9513/>

## 【GMO インターネットグループの生成 AI 活用調査結果】

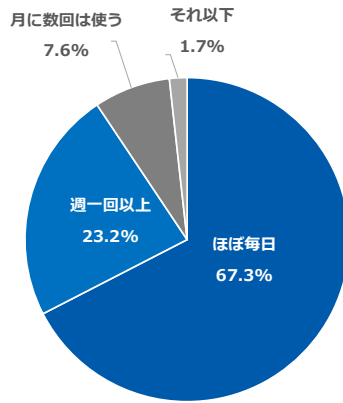
### ① 生成 AI 業務活用率が 94.1%に、うち 7 割弱が「ほぼ毎日」活用

- ・ 国内パートナー（シフト勤務除く）の 94.1%が生成 AI を活用（前回調査差+4.1 ポイント）。
- ・ 業務に生成 AI を活用しているパートナーのうち **67.3%が「ほぼ毎日」、90.4%が「週 1 回以上」活用**していることがわかりました。
- ・ 生成 AI の活用で、ひと月あたり**約 22.4 万時間**（前回調査差+約 4.7 万時間）**の削減、1 人あたり約 38.4 時間**（前回調査差+約 6.2 時間）**の削減を実現**しました。
- ・ 前回よりパートナーの活用レベルの算出を始めましたが、**高レベルに分類されたパートナーは全体の 45.5%と、前回から 1.5 倍以上**となりました。

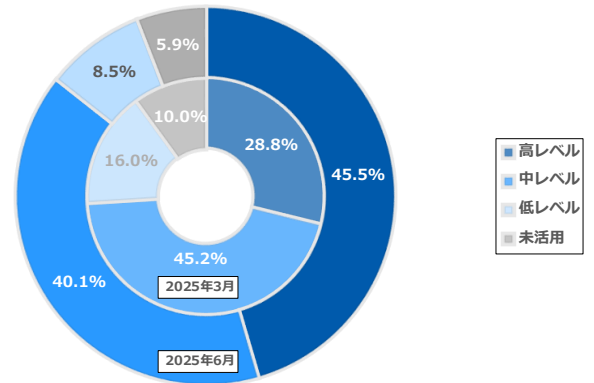
## 生成AI業務活用率



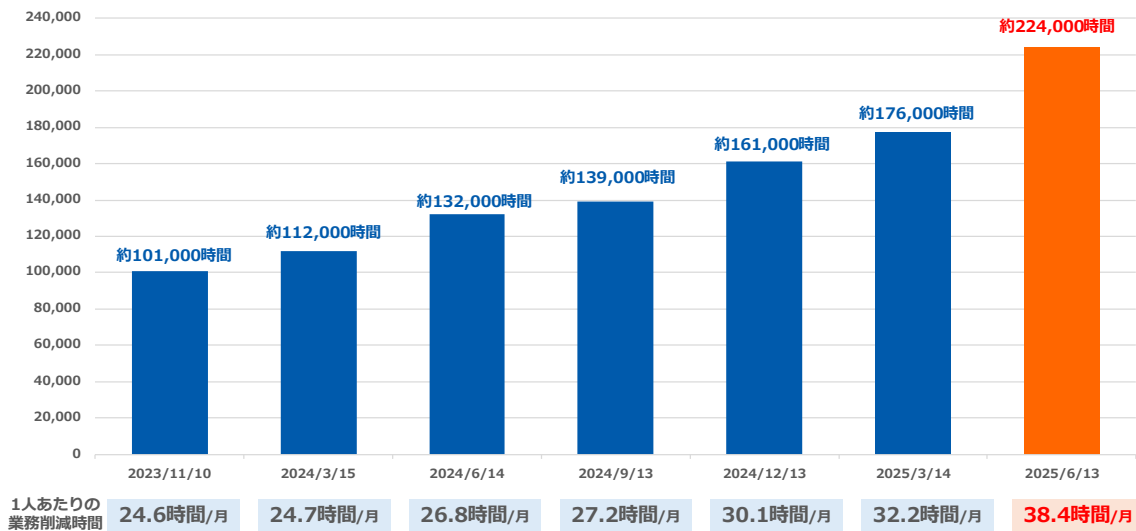
## 生成AI業務活用頻度



## AI活用レベル



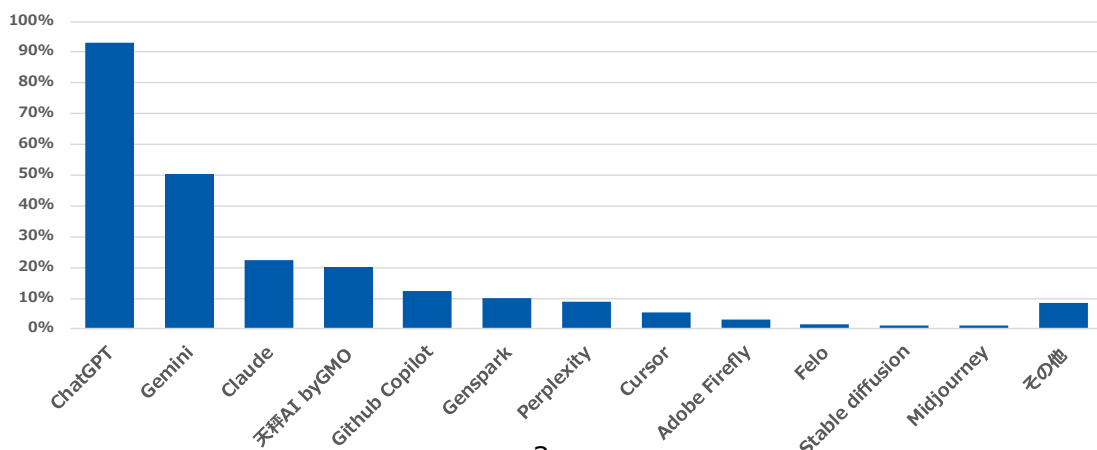
## 業務削減時間の推移（月間）



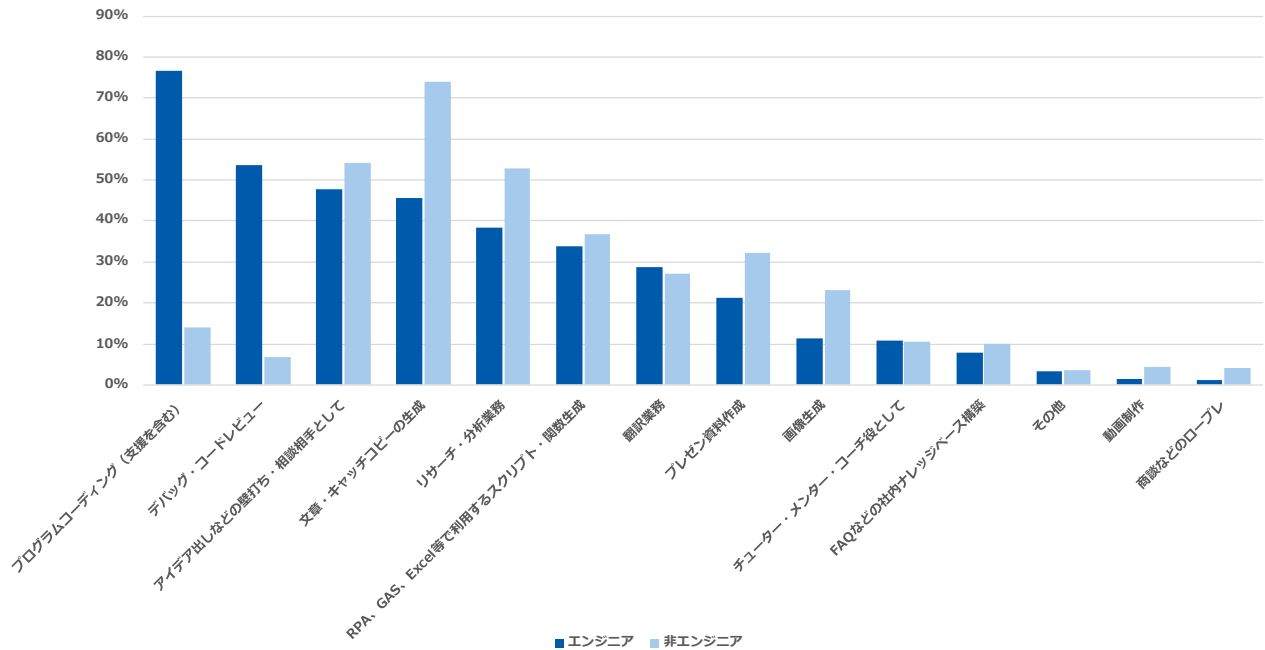
## ② 生成 AI の利用用途

- 業務活用をしているパートナーのうち、日常的に利用している生成 AI サービスは、**ChatGPT が 93.0%と一番多く、次いで Gemini (50.3%)、Claude (22.2%)、天秤 AI byGMO (20.0%)** となりました。Gemini が前回の 30.9%から大幅に伸び、また**天秤 AI byGMO は Claude と同じ程度使われている**ことが分かりました。
- 業務活用をしているパートナーの主な利用用途は「文章・キャッチコピーの生成」「アイデア出しなどの壁打ち・相談相手として」「リサーチ・分析業務」となりました。
- エンジニア職種**であるパートナーは、**96.5%が生成 AI を業務活用**しています。
- 生成 AI を業務活用しているエンジニアのうち **86.8%が生成 AI コーディングを利用用途として使用**しており、非エンジニアについても 44.0%のパートナーが生成 AI コーディングをしていることがわかりました。

## 日常的に利用しているAIサービス



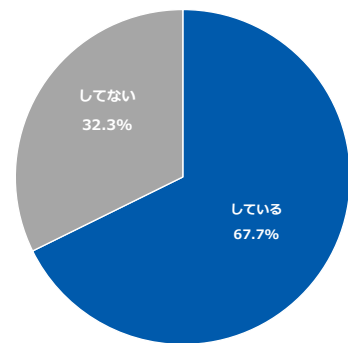
## 生成AI利用用途



### ③ 複数 AI ツールの利用と有料契約について

- ・ 複数 AI ツールの利用率は、2025 年 3 月時点で 53.4%であったのに対し **67.7%と、14.3 ポイント上回る結果に**。今年度より複数 AI ツールのさらなる活用を進めており、その成果が出始めていると予想されます。
- ・ **有料 AI ツールの契約は 46%**にとどまりましたが、**「GMO AI ブースト支援金」の導入で有料 AI ツールの利用がしやすい環境となる**ため、次回の調査では増加する見込みです。

複数AIサービス利用率



### ④ AI を使っていて「まだ自分（人間）がやったほうが良い」と感じたことがあれば教えてください。

- ・ 法務・税務・会計などの専門分野では、AI が誤った情報を提供するリスクが高いため、**人間による最終確認が不可欠**という回答が多くみられました。
- ・ 相手との関係性に応じた温度感の調整や、誤字脱字・ファクトチェックを含めた品質保証は人間でないとできないため、**最終調整は人間が行うべきだ**という声が目立ちました。

#### ■ パートナーのコメント

＜AI を使っていて「まだ自分（人間）がやったほうが良い」と感じたことがあれば教えてください。＞

**文章や資料の最終調整**：「スクリプトにしても、原稿にしても、資料にしても、最後の微調整的な部分は人間がやるべきだと思います。相手との関係性に応じた調整や品質保証は人間でないと対応できません。」

**法律など誤りが許容されない業務**：「法律に関する情報はあまり正確ではないと感じます。誤りが許容されない業務は人間による最終確認が不可欠だと感じます。」

**細かい条件があるデータ分析**：「細かい条件付与をした場合の分析や、テンポラリーに発生するデータ分析は、プロンプト作成も難しく、結局のところ自分で整理してみた方が早かったです。」

⑤ **生成 AI を使いこなしている人の条件とは？**

- ・ 最新の情報を素早くキャッチアップして即座に試せる人や、進化の早さを踏まえ現状のツールに固執せず、新機能が出れば乗り換えることを厭わない人といった次々と出る生成 AI の情報についていけることや、新しい情報の良し悪しを判断できることなどが多く挙げられました。
- ・ 複数の AI を用途別に使い分けている人、各ツールの特徴を理解して目的に応じて適材適所で活用できる人といった声も目立ちました。

■ **パートナーのコメント**

＜あなたにとって、生成 AI を使いこなせているなと思う人はどんな人ですか？＞

**複数の生成 AI を用途別に利用：**「複数の生成 AI を組み合わせて、最適なアウトプットを出力できる人や、生成 AI に頼らずとも効率化できる要素と生成 AI に頼った方が効率化できる要素の判断が即座にできる人です。」

**最新情報のキャッチアップと正当性の判断：**「ボールペンを使うように生成 AI を自然に使う人や、アンテナを高く張り、最新のテクノロジーをいち早くキャッチアップし自分の引き出しにできる人だと思います。」

**生成 AI と人との役割分担ができる：**「生成 AI を使用した場合に短縮できる時間を瞬時に判断し、生成 AI を使用するか手動で行うか判断できる人や、生成 AI へ必要十分な指示を与えて質の高い結果を短時間で取得できる人だと思います。」

【**グループ内 AI 推進プロジェクト「AI しあおうぜ！」リーダー 李 奨培（り じゃんべ）コメント**】

全パートナーの AI 活用率は 9 割を超え、「複数 AI ツールの活用」を標準化すべく、グループを挙げて取り組んでいます。GMO インターネットグループ株式会社、GMO インターネット株式会社では 2024 年 4 月より、全パートナーが ChatGPT、Claude、Gemini を Slack 上で使える環境を整えてきましたが、この度「GMO AI ブースト支援制度」の取り組みがスタートしたことにより、有料の複数 AI ツールの利用はグループ内の標準となります。生成 AI コーディングの標準化も急ピッチで進めています。



【**GMO インターネットグループについて**】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を主軸に、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

また、「AI で未来を創る No. 1 企業グループへ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。<sup>(※5)</sup> なお、生成 AI を活用し、2024 年は年間で推定約 150 万時間の業務削減を実現しています。

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 110 社以上に在籍する約 7,500 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者（エンジニア・クリエイター）が 50% を超えています。（2024 年 12 月末時点）

（※5）参考 URL 「AI で未来を創る No.1 企業グループ」実現への取り組み <https://www.gmo.jp/ai-history/>

GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例については別紙に記載しております。

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社

グループ広報部 PR チーム 倉田

TEL : 03-5456-2695

問い合わせフォーム : <https://www.gmo.jp/contact/press-inquiries/>

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL : <https://www.gmo.jp/>)

|         |                                             |                    |  |
|---------|---------------------------------------------|--------------------|--|
| 会 社 名   | GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード : 9449) |                    |  |
| 所 在 地   | 東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー                 |                    |  |
| 代 表 者   | 代表取締役グループ代表 熊谷 正寿                           |                    |  |
| 事 業 内 容 | ■ インターネットインフラ事業                             | ■ インターネット広告・メディア事業 |  |
|         | ■ インターネット金融事業                               | ■ 暗号資産事業           |  |
| 資 本 金   | 50 億円                                       |                    |  |

Copyright (C) 2025 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.

【別紙 : GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例】

#### ■①時間とコストの節約

- 2023 年 4 月より賞金総額 1,000 万円の社内公募コンテスト「AI (愛) しあおうぜ! ChatGPT 業務活用コンテスト」を実施。AI に関する取り組みや新サービスへつながる作品が集まり、多くがサービス提供・実装しました。
- AI に関する最新動向や最新ツールの理解を深める、専門家による「GMO AI セミナー」を定期開催しています。
- AI に関するグループ内のポータルサイト「GMO Genius」を立ち上げ、プロンプトや GPTs の共有、その他情報共有等を行い、グループ内の「AI ナレッジ」の共有を図っています。
- 非エンジニアを対象としたリスクリテラシー施策として、社内の有識者が講師となり、3 か月間の短期 AI 人材育成プログラム「虎の穴」を実施しています。
- 全パートナー受験必須の AI テスト「GMO AI パスポート」を実施しています。また、中途採用における選考で AI に関する課題を実施しています。
- Slack 上で使える「ChatGPT」等のアプリを提供し、情報が学習されないクローズドな環境で、有料ツールを利用できる環境を提供しています。
- 2024 年 12 月に、「AI 熊谷正寿」実現へのステップとして社内向け独自 AI ツールを提供開始しました。本ツールは「GMO イズム」を学習した“バーチャル知的ナビゲーター”です。  
(<https://www.gmo.jp/news/article/9305/>)

#### ■②既存サービスの質向上

AI を活用し既存サービスへの機能追加による質の向上を測っています。生成 AI による文章や画像の生成等により、ドメイン、ホスティング、EC、広告、メディア、セキュリティ等幅広い領域でお客様にこれまで以上に利便性の高いサービスをご提供しています。詳しくはこちら (<https://www.gmo.jp/ai-history/>)

#### ■③AI 産業への新サービス提供

AI 産業を盛り上げるべく AI スタートアップの支援を進めています。

1. 2023 年 5 月に、ハンズオン型 CVC「GMO Web3 株式会社」を、「GMO AI&Web3 株式会社」へと社名変更し AI スタートアップ支援を拡大しています。すでに、有望な AI スタートアップへの支援を実施しています。
2. NVIDIA 社の GPU「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」「NVIDIA L4 Tensor コア GPU」を搭載した AI 開発者向けの GPU ホスティングサービスを開始しました。[\(https://www.gmo.jp/news/article/8677/\)](https://www.gmo.jp/news/article/8677/)  
[\(\[https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo\\\_disclose\\\_info20240213\\\_06.pdf\]\(https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo\_disclose\_info20240213\_06.pdf\)\)](https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo_disclose_info20240213_06.pdf)
3. AI 専門家とともに「GMO 教えて AI 株式会社」を設立し、生成 AI プロンプトポータルサイト「教えて AI」を開始しました。[\(https://oshiete.ai/\)](https://oshiete.ai/)
4. 2024 年 6 月に、GMO AI&ロボティクス商事株式会社（通称 GMO AIR）を設立し、AI とロボット・ドローンの導入・活用支援を軸とした新たな事業を開始しました。[\(https://www.gmo.jp/news/article/9010/\)](https://www.gmo.jp/news/article/9010/)
5. 2024 年 11 月に、「NVIDIA H200 Tensor コア GPU」と「NVIDIA Spectrum-X」イーサネット ネットワーキング プラットフォームを採用した「GMO GPU クラウド」の提供を開始しました。  
[\(https://www.gmo.jp/news/article/9271/\)](https://www.gmo.jp/news/article/9271/)